

## 鳥取県先端 I C T 利活用サービス等開発・実証支援補助金交付要綱

### (趣旨)

第 1 条 この要綱は、鳥取県補助金等交付規則（昭和 3 2 年鳥取県規則第 2 2 号。以下「規則」という。）第 4 条の規定に基づき、鳥取県先端 I C T 利活用サービス等開発・実証支援補助金（以下「本補助金」という。）の交付について、規則に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

### (交付目的)

第 2 条 本補助金は、県内企業が企業及び県内市町村等と連携して行う、I o T、ビッグデータ分析、A I、5 G 等の先端技術や革新目覚ましい I C T（通信技術）を活用したシステム・サービスの開発及び県内実証の取組を支援することで、先端 I C T を活用した新事業展開やイノベーションの促進を図るとともに、先端技術の地域実装及び定着による県内各分野の高度化や課題解決と、技術的ノウハウや成果の共有・蓄積による県内での先端技術の利活用促進を図ることを目的として交付する。

### (補助対象者)

第 3 条 本補助金の対象者は、次の要件を全て満たす者とする。

- (1) 「とっとり D X ラボ（とっとり I o T 推進ラボ）」に参画している事業者であること。
- (2) 鳥取県内に本店、支店、営業所、事務所その他名称の如何を問わず、事業を行うために必要な施設を有するとともに、鳥取県内において主体的に開発に取り組む能力を有すること。
- (3) 風俗営業等の規制及び業務の適正化に関する法律（昭和 2 3 年法律第 1 2 2 号）第 2 条に定める風俗営業、性風俗関連特殊営業又は接客業務受託営業を営む者ではないこと。
- (4) 暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成 3 年法律第 7 7 号。以下「暴対法」という。）第 2 条第 2 号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）ではないこと。なお、個人事業主の場合は暴力団員（暴対法第 2 条第 6 号に定める暴力団員をいう。以下同じ。）ではないこと。
- (5) 暴力団若しくは暴力団員の利益につながる活動を行い、又は暴力団若しくは暴力団員と密接な関係を有する者ではないこと。
- (6) 事業開始から終了するまでの間、(3)、(4) 及び (5) を満たす 1 者以上の事業者と連携して別表の第 1 欄に掲げる事業を行う者であること。
- (7) 県内市町村と連携して実証を行う者であること（ただし、補助事業のうち、別表第 1 欄に掲げる事業のうち、「地域実装定着型」を実施する場合に限る。）。

### (補助金の交付)

第 4 条 県は、第 2 条の目的の達成に資するため、別表の第 1 欄に掲げる事業（以下「補助事業」という。）を実施する前条に掲げる者に対し、予算の範囲内で本補助金を交付する。

- 2 本補助金の額は、補助事業に要する別表の第 2 欄に掲げる経費（以下「補助対象経費」という。）の額（仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和 6 3 年法律第 1 0 8 号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と、当該金額に地方税法（昭和 2 5 年法律第 2 2 6 号）に規定する地方消費税率を乗じて得た金額の合計額をいう。以下同じ。）を除く。）に、同表の第 3 欄に定める率（以下「補助率」という。）を乗じて得た額（同表の第 4 欄に定める額を限度とし、千円未満の端数は切り捨てる。）以下とする。
- 3 事業実施期間は、別表の第 5 欄に定める期間とする。
- 4 本補助金とは別に県から同種の補助金等を受けている又は受ける予定となっている事業については、補助対象としないものとする。
- 5 なお、鳥取県産業振興条例（平成 2 3 年鳥取県条例第 6 8 号）の趣旨を踏まえ、補助事業の実施に当たっては、県内事業者への発注に努めなければならない。

(事業提案書の提出及び評価)

第5条 本補助金の交付を受けようとする者は、様式第1号による事業提案書、様式第2号による事業計画書及び様式第3号による収支予算書を商工労働部長が定める期日までに提出するものとする。

2 商工労働部長は、事業提案書の提出があったときは、別に定める鳥取県補助金等審査会（鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金審査会）に諮り、採択の可否を決定するものとする。

(交付申請の時期等)

第6条 本補助金の交付申請は、商工労働部長が定める期日までに行わなければならない。

2 規則第5条の申請書に添付すべき同条第1号及び第2号に掲げる書類は、それぞれ様式第2号及び様式第3号によるものとする。

(交付決定の時期等)

第7条 本補助金の交付決定は、原則として、交付申請を受けた日から起算して30日以内に行うものとする。

2 本補助金の交付決定通知は、様式第4号によるものとする。

(承認を要しない変更)

第8条 規則第12条第1項の知事が別に定める変更は、次に掲げるもの以外の変更とする。

(1) 本補助金の増額を伴う変更

(2) 交付目的の達成に支障が生じ、又は事業効率の低下をもたらすおそれのある事業計画の変更

2 前条第1項の規定は、変更等の承認について準用する。

3 規則第12条第3項の申請書に添付すべき書類は、様式第2号及び様式第3号によるものとする。

(実績報告の時期等)

第9条 規則第17条第1項の規定による報告（以下「実績報告」という。）は、補助事業の完了又は中止若しくは廃止の日から15日を経過する日までに行わなければならない。

2 規則第17条第1項の報告書に添付すべき同条の第2項第1号及び第2号に掲げる書類は、それぞれ様式第5号及び様式第6号によるものとする。

3 知事は、実績報告があったときは、提出された書類を審査し、職員に現地調査等を行わせることとし、補助対象経費が適正に支出されていると認めたときは、本補助金の額を確定し確定した額から既支払額を差し引いた額を支払うものとする。

(進捗状況報告の時期等)

第10条 補助事業者は、各年度の9月30日現在における補助事業の進捗状況を、当該年度の10月15日までに、様式第7号により知事に報告しなければならない。ただし、当該年度の9月30日までに補助事業を完了、中止又は廃止したときは、この限りではない。

2 補助事業者は、規則第17条第3項の規定による各年度の進捗状況を、翌年度の4月15日までに、様式第8号により知事に報告しなければならない。

(現地調査等)

第11条 知事は、前条第1項の報告により、提出された書類を審査し、必要に応じて補助事業の進捗について、職員に現地調査等を行わせることができるものとし、状況に応じて事業の進捗を促すものとする。

2 知事は、前条第2項の報告があったときは、提出された書類を審査し、職員に現地調査等を行わせることとし、補助対象経費が適正に支出されていると認めたときは、支払実績額に基づき交付決定額

の範囲内で本補助金を支払うものとする。

3 規則第20条第1項の申出は、様式第8号により行うものとする。

(財産の処分制限)

第12条 規則第25条第2項ただし書の期間は、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定める耐用年数に相当する期間（同令に定めのない財産については、知事が別に定める期間）とする。

2 規則第25条第2項第4号の財産は、次のいずれかに該当するものとする。

(1) 取得価格又は効用の増加価格が30万円以上の機械及び器具

(2) その他交付目的を達成するため処分を制限する必要があるものとして知事が別に定めるもの

3 規則第25条第2項の規定による承認を受けるに当たっては、処分の事前に様式第9号により申請するものとする。

4 第7条第1項の規定は、規則第25条第2項の承認について準用する。

(補助事業の報告等)

第13条 商工労働部長は必要があると認めるときは、補助事業者に補助事業の状況・成果について報告又は発表させることができる。

(補助事業の成果に関する公表等)

第14条 県は、補助事業者による補助事業の成果を「とっとりDXラボ（とっとりIoT推進ラボ）」内において公表することができる。

2 県は、前項の規定について、補助事業者との事前協議により、補助事業の内容が公表に適さないと判断されるとき、一部又は全部を公表しないものとする。

(雑則)

第15条 規則及びこの要綱に定めるもののほか、本補助金の交付について必要な事項は、商工労働部長が別に定める。

附則

1 この要綱は、令和3年3月31日から施行する。

2 鳥取県先端ICT地域プロジェクト型開発・実証支援補助金交付要綱（令和元年8月16日付第201900100159号鳥取県商工労働部長通知）は、令和3年3月31日限り廃止する。ただし、当該規定による廃止前の交付要綱により交付決定された補助金については、なお従前のおりとする。

別表（第4条関係）

1 補助事業	2 補助対象経費		3 補助率	4 補助限度額	5 事業期間	
	経費区分	内容				
<p><b>【最先端技術挑戦型】</b></p> <p>将来的に地域への普及が期待される高度な最先端技術（5G・ロボット等）を活用した新たな商品・サービスの開発・実証による課題解決等に資する事業</p>	共	1 直接人件費	事業に従事する従業員・アルバイト等について、当該開発に直接従事する時間の給与・賃金相当額	1 / 2	1,000万円	最大 24か月
		2 ソフトウェア開発環境使用料及び購入費	ソフトウェア開発に必要な開発環境の使用料（サーバー利用料等）及び購入費（取得金額30万円未満のものに限る）			
		3 委託費	自社で不可能なソフトウェア等の開発の一部について、外部委託に要する経費（県内事業者が実施したものに限る。ただし、やむを得ない事情で県内事業者への発注が困難と事前に県が認めた場合については、この限りでない。）			
		4 機械装置・工具器具費	開発に必要な機械装置・工具器具類の購入（取得金額30万円未満のものに限る）、借用に要する経費。			
<p><b>【地域実装定着型】</b></p> <p>開発・実証後に県内（地域）での定着が見込まれる、先端技術を活用した新たな商品・サービスの開発・自治体と連携した地域実装による県内各分野の高度化及び課題解決等に資する事業</p>	通	5 減価償却費	開発に必要な新たに購入する取得金額30万円以上のソフトウェア、機械装置・工具器具類について、補助事業実施期間に発生する減価償却費	1 / 2	800万円	最大 12か月
		6 外部専門家受入経費	補助事業者が開発に関する専門知識や、開発のための技術的ノウハウ等を得るために行う、外部専門家の受入に要する経費（専門家への旅費・謝金、専門家を招いての従業員講習のための会場借上料等）			
		7 その他	補助事業遂行のために要すると県が認める経費			
		<p>※補助対象経費全体に対する委託費の経費配分割合は、50パーセント以下とする。</p> <p>※機械装置・工具器具費、減価償却費については、量産用設備及び開発目的以外の利用も可能となる汎用性設備は対象外とする。</p>				

鳥取県知事 様

申請代表者 所在地  
企業名  
代表者名

印

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証事業提案書  
【最先端技術挑戦型、地域実装定着型】

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証事業について、下記のとおり提案します。

記

- 1 提案名
- 2 提案型 最先端技術挑戦型 ・ 地域実装定着型
- 3 事業実施計画 様式第2号のとおり
- 4 問い合わせ先 所属・役職名：  
氏 名：  
住 所：〒  
  
電 話：  
ファクシミリ：  
電子メール：

（注）提案型は該当する補助事業型に丸をしてください。

鳥取県先端 I C T利活用サービス等開発・実証事業（変更）事業計画書

1 補助事業者の概要（補助事業を代表し、補助金の交付先となる事業者を記入）

名 称：
住 所：
代表者名：
資 本 金：
従業員数：
URL：http://www.
担当者部署・担当者名：
担当者 E-mail：
TEL/FAX：
主たる業務内容：

- (注) 1 必要な場合は、欄を追加して具体的に記載すること。  
2 別途、事業者の事業概要がわかる書類（様式自由。パンフレット等でも可。）を添付すること。

2 連携先の事業者等の概要（「地域実装定着型」の場合は実証先の県内市町村も記入）

名 称：
住 所：
代表者名：
資 本 金：
従業員数：
URL：http://www.
担当者部署・担当者名：
担当者 E-mail：
TEL/FAX：
主たる業務内容：

- (注) 1 必要な場合は、欄を追加して具体的に記載すること。  
2 別途、事業者の事業概要がわかる書類（様式自由。パンフレット等でも可。）を添付すること。  
3 連携先全員分を本様式により提出すること。

### 3 事業計画書

事業の名称	(30文字程度で簡潔に)
事業の概要	(200文字程度で簡潔に)
期待される効果	
事業期間	[開始予定日]                      [終了予定日(支払行為も含む)] 年 月 日 ~ 年 月 日 ※交付決定日が開始予定日より遅くなった場合は、開始日は交付決定日とする。
事業内容	実施内容 (開発・実証内容は、図や写真等も活用し分かりやすく記載すること)

<p>実施体制</p>	<p>(企業及び県内市町村等との連携体制、役割等を図等も活用し記載すること)</p>
<p>実証後の展開</p> <p>事業化・ 地域実装の 見 通 し</p>	<p>(顧客・販路・採算性・パートナー・リソースなどの観点から記載)</p>

4 事業期間の取組スケジュール

時期	実施内容
月	
月	
月	
月	
月	
月	
月	
月	
月	



## 5 実証後の展開

時期	内容
年度 月～ 月	
年度 月～ 月	

## 6 添付資料

次に掲げる書類を各1部添付すること（添付したら□にチェックすること）。

- 補助事業の収支予算書（様式第3号）
- 申請者全員の登記簿謄本（写しで可）
- 申請者全員の直近2期分の決算書（写しで可）
- 申請者全員の概要がわかる資料（連携グループの内、支援機関、学術機関、自治体を除く）
- 事業の全容がわかる資料（システム概要、ビジネスモデル概略模式図、全体スケジュールなど）
- 補助対象経費の積算根拠となる見積書の写しや製品カタログの写し等

## 7 他の補助金の活用

補助金等の名称	
事業の名称	
事業期間	[開始日] 年 月 日 ～ [終了予定日] 年 月 日
補助金所管 部署名・団体名 連絡先	
今回提案事業との 実施内容の違い	
今回提案事業との 実施体制の違い	

## 8 消費税の取り扱い

- 一般課税事業者
- 簡易課税事業者
- 免税事業者

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金（変更）収支予算書

1 収入の部

（単位：円）

	金額	資金の調達先
自己資金		
借入金		
補助金		
その他		
合計		

2 支出の部

（単位：円）

経費区分	経費内訳 積算明細	補助事業に 要する経費	補助対象経費	区分		備考
				補助金	自己負担	
直接人件費						
ソフトウェア 開発環境使用 料・購入費						
委託費						
機械装置 工具器具						
減価償却費						
外部専門家受入 経費						
その他						
合計						

- （注） 1 補助対象経費について、県外事業者への発注を予定している場合は、別紙様式「県外発注理由書」に必要事項を記載の上、収支予算書とあわせて提出すること。
- 2 委託にかかる経費のうち補助対象経費とできるものは、やむを得ない事情により事前に県が認めた場合を除き、県内事業者が実施したものに限る。
- 3 見積書等の根拠資料を添付すること。
- 4 明細は本収支予算書に準じた任意の様式の添付でも可とする。
- 5 「補助対象経費」欄には消費税及び地方消費税を除いた額を記載すること。

## 県外発注理由書

経費区分	経費の内容	発注先 事業者名	発注先 所在地	当該経費に係る 県内事業者の状況	県内発注できない理由、 県外発注でなければなら ない理由

様

鳥取県知事

年度鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金交付決定通知書

年 月 日付けの申請書（以下「申請書」という。）で申請のあった鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金（以下「本補助金」という。）については、鳥取県補助金等交付規則（昭和32年鳥取県規則第22号。以下「規則」という。）第6条第1項の規定に基づき、下記のとおり交付することに決定したので、規則第8条第1項の規定により通知します。

記

1 対象事業

本補助金の補助事業の内容は、「年度鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金」とし、その内容は、申請書に記載されているとおりとする。

2 交付決定額等

本補助金の算定基準額及び交付決定額は、次のとおりとする。ただし、補助事業の内容が変更された場合におけるそれらの額については、別に通知するところによる。

- (1) 算定基準額 金 円  
(2) 交付決定額 金 円

3 経費の配分

本補助金の補助対象経費の配分及びその配分された経費に対応する交付決定額は、申請書に記載されているとおりとする。ただし、補助事業の内容が変更された場合においては、別に通知するところによる。

4 交付額の確定

本補助金の額の確定は、補助対象経費の実績額について、鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金交付要綱（令和3年3月31日付第202000343814号鳥取県商工労働部長通知。以下「要綱」という。）第4条第2項の規定を適用して算定した額と、前記2の(2)の交付決定額（変更された場合は、変更後の額とする。）のいずれか低い額により行う。

5 補助規程の遵守

本補助金の收受及び使用、補助事業の遂行等に当たっては、規則及び要綱の規定に従わなければならない。

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証事業実施報告書

1 申請者の概要

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 企業名</li><li>・ 代表者職・氏名</li><li>・ 住 所</li><li>・ 電話番号・ファクシミリ番号</li><li>・ メールアドレス（担当者）</li><li>・ 担当者職・氏名</li></ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 実績概要

①事業計画名
②本事業の実施日程 〔開 始 日〕                      〔終 了 日〕 年 月 日 ～                      年 月 日
③実施結果（計画書に記載した取組内容の項目に沿って、取組内容を具体的に記載すること。 また、当初計画からの変更点があれば、変更内容・経緯等についても記載すること。）
④目標達成状況（計画書に記載した取組目標の項目に沿って、取組目標の達成状況を記載すること。また、当初計画からの変更点があれば、変更内容・経緯等についても記載すること。）
⑤今後の展開及び課題

※ 本事業を通じて作成した今後実行していく構想に係る事業計画書を添付すること。

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金収支決算書

1 収入の部

(単位：円)

	金額	資金の調達先
自己資金		
借入金		
補助金		
その他		
合計		

2 支出の部

(単位：円)

経費区分	経費内訳 積算明細	補助事業に 要する経費	補助対象経費	区分		備考
				補助金	自己負担	
直接人件費						
ソフトウェア 開発環境 使用料・購入費						
委託費						
機械装置 工具器具						
減価償却費						
外部専門家受 入経費						
その他						
合計						

- (注) 1 合計については、予算額を上段に（ ）で記載すること。  
 2 開発外注委託した場合は、備考欄に委託先名を記載すること。  
 3 明細は本収支決算書に準じた任意の様式の添付でも可とする。  
 4 「補助対象経費」欄には消費税及び地方消費税を除いた額を記載すること。

年 月 日

鳥取県知事 様

申請代表者 所在地  
企業名  
代表者名 印

年度鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証事業進捗状況報告書

年 月 日付第 号により交付決定通知があった上記事業に係る  
年 月 日現在の遂行状況について、鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金交付要綱第10条の規定により、別紙のとおり報告します。

別紙（様式第7号）

1 補助事業の進捗状況

実施事業名	
事業担当者の 職 氏 名	
事業内容	① 実施内容  ② 事業成果（目標達成状況等）  ③ 今後の予定

2 予算の執行状況

（単位：円）

交 付 決 定	算定基準額	交付決定額
前年度までの実績		
本年度実績 （～ 月 日）		
今後の執行見込み		



年 月 日

鳥取県知事 様

申請代表者 所在地  
企業名  
代表者名

印

鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金の支払に係る申出書

年 月 日付第 号による交付決定に係る鳥取県先端ICT利活用サービス等  
開発・実証支援補助金の支払について、鳥取県補助金等交付規則第20条第1項の規定により、  
下記のとおり申し出ます。

記

（単位：円）

補助事業等の名称	
交付決定額	
支払時期・支払額の変更希望内容又は支払停止希望額	
支払時期・支払額を変更又は支払停止を希望する理由	
添付書類	資金計画書

年 月 日

鳥取県知事 様

申請代表者 所在地  
企業名  
代表者名

印

取得財産処分承認申請書

年度鳥取県先端ICT利活用サービス等開発・実証支援補助金により取得し又は効用の増加した財産を処分するため、同交付要綱第12条第3項の規定により、下記のとおり申請します。

記

品目及び取得年月日	
取得価格及び時価	
処分の内容	